

〔日本書紀十七〕二十三年三月百濟王謂下哆唎國守穗積押山臣曰夫朝貢使者恒避島曲謂海中島俗云美佐郡每苦風波因茲濕所寶全懷無色請以加羅多沙津爲臣朝貢津路

〔奥義抄上ノ末〕出萬葉集所名 普通名所不注略中

崎

みわがさき 神さき みをがさき としまのさき やくのさき みこしのさき かねのみ
ささちはやふる しらのさき かしまのさき ゆらのさき たかひめのさき をぶさのさ
さき あらつのさき あれのさき たぶしのさき をじまのさき のじまがさき みそめし
さき いもがめ しぶたにのさき しらすさき あら井のさき みうらのさき たごのさき
みはのさき えてのさき

〔八雲御抄五所〕崎

みわのさき 大海 万みそめの萩 万まがのから 万近 たふまの 万伊勢 玄下の 万有 野島が 近あづ
まぢのともいふ也一説有淡路と云々但万ゆらのみ紀さきともゆら玄ら近江也 しまの淡
葉にあふみあはち同字也是はあふみか万ゆらのみ紀さきともゆら玄ら近江也 しまの淡
玄ぶたにの越中のさは万のありそたなひめの湖 万たごの同にはあるがすたあれの参川 みこし
の相くらのかみうららさきなるはつきのみうさきたまの武さきのかしまの常られ万社か
ねのみ筑前きと万もやらの同さきもちやはこ同松社中將後尼あらつ神紫ぶる万みをは近ま万
かのいから源氏いらこが三河勢か清輔抄るじまが淡おぐる陸古やまぶきの山き也源氏宇
浦なからの石 むしまの攝 みつの同万きよみほ駿のうらみつこの武万まつか拾歌能かすみ
治なからの石 むしまの攝 みつの同万きよみほ駿のうらみつこの武万まつか拾歌能かすみ
の武 山ぶきの近 ほのみの紀 みほのつり雲事る所日本紀の神

〔藻鹽草水邊〕崎 此内非水邊も

いほ崎に下總とりまかつち山夕こえくはつていほさきのみすみはま原岩崎そ久しけれまだ千二葉のなりい